

中学校区におけるめざす子ども像・・・「自分・人」を「学ぶこと」を「心と体の健康を」大切にできる子

学校教育目標：(めざす子ども像)自ら学び、共に育つ 自立した子どもの育成 主体的に学ぶ子ども・思いやりのある子ども・たくましい子ども

重点目標(組織目標)：自分ごととして考え、主体的に学びに向かう児童、他者と協働する児童を育成する

- ・自分や友だちの良い所を探し活動を通して、自己決定を促し、自己肯定感や自己有用感を高める活動を行う。仲間づくりの活動を行い、どの子も居場所のあるクラスづくりを行う。(人権委員会)
- ・研修テーマ「自己決定ができる児童を育てる授業づくり～学びのコンパスを見据えて～」(学力向上委員会)

※教職員は最大の学習環境と捉え、堺市教職員の「働き方改革」推進のためのプラン「ウェルビーイング向上のための取組指針」に沿い、「これまでの当たり前を見直す」ことに取り組む。

確かな学びの現状

○ 令和6年度全国学力・学習状況調査(4月,6年生)や「すすすくウォッチ(大阪府学力調査)」(4月,5,6年生)では、情報の扱い方(国語)やデータの活用(算数)や地球を柱とする領域(理科)ではよい結果が見られた一方、「話すこと聞くこと」「言葉の特徴や使い方」「自分の考えをまとめ、伝える」「工夫して相手に伝える」などに関する事項に課題が見られた。

○ 令和6年度堺市学習・生活状況調査(5～6月,4～6年生)では、「失敗をおそれず挑戦している」に肯定的回答78%(3学年平均)、「先生は、わかるまで教えてくれる」91%、「わからないことなどを質問しやすい雰囲気授業が行われた」62%、「グループやペアで意見や考えを出し合い課題を解決した」69%、「1か月に、1冊も本を読まない」24%であった。

○ 令和6年度学校教育アンケート(1月,全児童)では、「学校へ行くのが楽しい」85%、「授業はわかりやすく、勉強ができるようになって」94%、「図書室で本を読むことは好きだ」86%であった。

○ 支援を必要とする児童に対し、通常の学級、本年度30名が在籍する特別支援学級、設置2年目の通級指導教室での指導「はるみルーム」などの様々な学びの場での支援、指導の充実を図るとともに、授業のユニバーサルデザイン化を推進し、すべての児童が困らない学校(教室)をめざす。

豊かな心・健やかな体の現状

○ 令和6年度堺市学習・生活状況調査(5,6月,4～6年生)結果では「自分には、良いところがある」と肯定的に答えた児童の割合は82%(3学年平均)、「相手の気持ちを考え、優しい言葉遣いができている」82%、「先生たちは自分のよいところを認めてくれた」88%、「友達は自分のよいところを認めてくれた」90%であった。

○ 令和6年度新体力テスト(6月)において、男女ともに、多くの項目で堺市平均を上回り、特に立ち幅跳びは全国平均を上回る。一方で、握力や上体起こしは堺市平均を下回る。運動器機能調査(7年4月,5年生対象,理学療法士による)では、身体や足首の柔軟性が気になるとのことだった。市平均値を上回る項目を維持継続するとともに、下回る項目において改善を図りたい。

○ 令和6年度学校教育アンケート(1月,全児童)において、「体育の授業で体を動かすのが楽しい」と肯定的に答えた児童の割合90%、「体育の授業でいろいろな運動ができるようになった」91%であった。また、「はるみ3つの約束ができている」は88%であった。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組) (★中学校区での取組に係る取組内容)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	授業改善	主体的に学ぶ学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぶことができる、心理的安全性の高い教室づくり ・教室(学習)環境を整える。 ・はるみ3つの約束(あいさつ、ろうか、チャイム着席)の定着を図る。 ・適切な課題の設定、ペアやグループで学ぶ場の設定 ●★自分の学びを自己決定(選択)する場を設ける。 ●一字一句を読み取る指導を丁寧に行ったり、幅広いジャンルの読書をすすめたり、資料を読み要点をまとめて自分の考えを伝える活動(アウトプット)などにより、読解力や表現力を高める。 ●授業のUD化を推進し、どの子もわかる、できる授業づくりを行う。 ・ICTの効果的な活用を図る。 ・学びのコンパス、個別最適な学び、協働的な学び、自由進度学習等について理解を深め、指導に活かす。 	アンケートによる肯定的評価80%以上	学校教育アンケート、各調査結果、授業や活動の観察、実践報告	年度末	◎	計画通り進めている。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・市ですすめる「学びのコンパス」(子どもが自ら学びをすすめる授業の考え方を示したもの)をもとに、子どもたちが課題解決に向け、自己決定ができる場を設けることに努めた。 ●児童アンケート「はるみ3つの約束(進んであいさつ・ろうかは歩く・チャイム着席)ができている」肯定的評価80%、「タブレットを使って勉強することができる」90%、「自分で考え、どうしていくか自分で決めることができる」86%、「学校へ行くのが楽しい」84%、「授業が分かりやすく、勉強ができるようになって」91%であった。 ・2学期までの単元テストを二教科とも80%を超えている学年は2学年。国語は全学年で80%を超えた。国算に限らず、基礎学力の向上をさらに図るとともに、間違いをおそれず、難しい課題にも挑戦しようと思えるような教室づくりを進めていきたい。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを出すことに粘り強く取り組む姿勢も大切なので、家庭の協力のもと、進められたらいいのではと思います。 ●単元テスト(国語)が全学年80%を超えていることは大変素晴らしいと思います。 ・基礎学力向上では、学校だけでなく家庭の協力も必要です。入学説明会等で直接伝えることも検討ください。 ・廊下、トイレなどの案内や、教室掲示が分かりやすく効果的と思う。整った環境で落ち着いて学習している。 ・児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」「授業がわかりやすく・・・」が高いことはとても良いと思います。
		基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども支援委員会等を活用した児童の様子の共有 ・支援計画、指導計画活用、自立活動の充実、「学びの場」の見直し ●SSW(R7年度、本校本務校)、外部機関や専門家と連携 ・必要な児童への学びへのアクセス支援 	アンケートによる肯定的評価80%以上		年度末	◎	計画通り進めている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学級児童の「学びの場」の見直しについて保護者の方と教育相談を行い、求年度を見据えた適切な支援指導を検討することができた。 ・教職員アンケート「子ども支援委員会を活用し、教職員と保護者との連携を深め、児童理解を図っている」96%。 ・外部機関と情報共有が必要な児童において、関係職員と外部機関で会議を行い、児童理解を深め、対応について検討することができた。 ・帝塚山学院大学と研修を行い、子ども理解を深めることができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぼほ学級授業参観では、児童に応じた丁寧な指導に驚きました。 ・(具体目標とは直接関連しませんが)校内在りいつも整理され、どの子にも分かりやすく、過ごしやすい環境だと感じます。 ・教育相談等により特性や状況に応じた指導をして下さっている。児童の成長を感じている。 ・保護者との話し合い、関係機関との連携、さらなる児童理解に取り組んでください。
		児童一人ひとりの特性や状況を理解した支援・指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●★自己決定、試行錯誤、成功体験積み重ねの支援 ・自分や他者の良いところ探し、仲間づくりや縦割り活動、いじめ防止の授業、自由の相互承認の理解、上位目標を共有した対話による課題解決などを通し、自己肯定感や自己有用感を高める。 ・予防的で成長を促す生徒指導を行う。 	アンケートによる肯定的評価80%以上		年度末	◎	計画通り進めている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分で考え、どうしていくか自分で決めることができる」86%、「自分に良いところがある」83%、「仲間づくりやたてわり活動は楽しい」90%。保護者アンケート「学校は命を大切にすることや、「いじめ」をしてはいけないことを教えている」83%。自己肯定感を高めることにつながる、仲間づくりや良いところ探しなどの活動を今後も充実させていきたい。 ・一方で、「自分やみんなの役に立っている」79%。肯定感とともに、自己有用感を高めることにつながる活動を工夫し、取り組んでいく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの通知表についてや、専科授業について、前年度よりも低くなっていることが気になります。 ・たてわり活動やクラブ活動、行事などが、学習とは違った楽しさや自信につながっていると思う。 ・児童アンケート「命を大切にすることや、『いじめ』をしてはいけないことを先生から教えてもらっている」99%は日頃からお話をよくされている成果と思います。
豊かな心・健やかな体	食育の充実	体力の向上、安全な生活	<ul style="list-style-type: none"> ●★運動を楽しむ機会、環境を充実させ、体力向上を図る。 ・けがの防止等について啓発し、安全で健康な生活を送ることができるようにする。 	アンケートによる肯定的評価80%以上、(参考)新体力テスト結果経年比較	学校教育アンケート、各調査結果、授業や活動の観察、実践報告	年度末	◎	計画通り進めている。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「体育の授業で体を動かすのは楽しい」90%、「いろいろな運動ができるようになった」93%。新体力テスト結果は男女計76項目(低学年3項目、中高学年8項目)のうち41項目で堺市平均を超え、昨年より少し向上した。一方で項目「握力」と「上体起こし」に課題があり、引き続き取り組む必要がある。 ・児童会活動を通し、病気予防や健康な生活についての啓発を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストが向上したことはよかった。児童のケガ等の防止にも引き続き取り組んでほしい。 ・体を動かすことが学習意欲につながると思うので、項目も大切ですが「楽しい」と思える活動があるといいなと思います。 ・休み時間などに、運動場で遊ぶ児童を見かける。より多くの児童が外遊びを好きになるとよいと思う。
		健康的な生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活等について啓発し、自らの食生活を考える力を育てるため食育授業や給食指導等を行う。 	アンケートによる肯定的評価80%以上		年度末	◎	計画通り進めている。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「毎朝、朝ご飯を食べている」低学年87%、中92%、高97%。 ・朝食に関する授業(4,5年)、朝ごはんの大切さを伝える取組(児童会)、ホームページ・食育だより・給食試食会・オープンスクールでの食育授業等による家庭への啓発を行った。給食残食率6.7%(6,11月の計18日間平均)。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・HPでの給食の投稿は保護者にも分かりやすく、家庭での会話が増えます。食育を考えるきっかけになったと思います。 ・朝食の喫食率が高いようだ。一方で、食べていない児童は心配です。状況により難しいこともあると思うが、啓発等を含め引き続き取り組んでほしい。
		開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々や関係機関と連携し、社会参画力の向上を図る。 ・オープンスクールやホームページ等を通して学校の様子を公開する。 	アンケートによる肯定的評価80%以上		学校教育アンケート、各調査結果	年度末	◎	計画通り進めている。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出かけたり、地域の方々やゲストティーチャーの方々から直接学ぶことができ、「本物」に触れる・出会えることができた。保護者アンケート(情報公開)の肯定的回答が95%。(地域連携)の肯定的回答が89%であった。 ・教職員アンケート「小中合同研修会等により、学校群での相互交流や共通理解が深まっている」82%。管理職の打ち合わせや協議を重ねて実施し、学校群の取り組みを進めることができた。 	◎
学校群の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・晴美台中学校区の取組初年度。組織づくり、目標設定、取組の検討をすすめる。 	アンケートによる肯定的評価80%以上	年度末	◎	計画通り進めている。		◎		◎			

校長より(年度末)

課題をどう解決していくか、また、自分の考えを作り上げていく「自己決定」の場を充実させたり、その考えをペアやグループで共有したり、自他の良いところ探しなど、重点目標達成に向けた取組や環境づくりを進めてきました。次年度に向け、主体的な学びを支える基礎学力の向上とともに、自信をもち、様々なことに挑戦したり、自身の思いや考えを伝えたり、相手のことも尊重しながら建設的で適切なコミュニケーションをしようとする児童を支える取組の充実を図りたいと思います。

学校関係者評価者から(年度末)

・地域のいろいろなイベントを通して、小学生との交流をたくさん持つことができていると感じています。素直で明るく元気一杯のはるみっ子に育ってほしいと願っています。

・専門家の方からの指導や生演奏、オリンピックによる授業等、今年は『本物』に触れる活動が多くありました。見て真似て挑戦できる素晴らしい環境が整えられていました。

・学校が様々な方法で、子どもたちのためにしてくださっていることがよくわかります。様々な困難もあると思いますが、よろしく願いいたします。

・子どもたちはよく挨拶をしてくれます。先生方のご尽力に感謝いたします。